

指定管理者による公の施設の管理状況評価（令和元年度分）

施設	名称	栃木市おおひら歴史民俗資料館
	所在地	栃木市大平町西山田898-1
	施設内容	郷土の考古・歴史・民俗文化等に関する資料を保護活用し、郷土意識の高揚と教育、学術及び文化の振興に寄与する歴史民俗資料館及び郷土資料館「白石家戸長屋敷」からなる複合施設
指定管理者	名称	特定非営利活動法人 自然と人間の森おおひら
	所在地	栃木市大平町西山田857
	主な業務内容	子供たちの森林環境教育や市民の自然体験に関する事業および都市と農山村の交流促進に関する事業

(1) 平等利用の確保とサービス向上の取組み

評価要素	①	施設の設置目的や特性に基づいた施設運営の基本方針が明文化され、職員が適切に理解しているか
	②	施設予約や利用方法等について、市民の誰もが利用しやすい利便性と平等性確保の配慮がなされているか
	③	アンケート調査等により、利用者等の意見を把握し、運営に反映させる取組みを行っているか
	④	利用者等からの苦情や意見などに対し、適切な取組みを行っているか

管理状況評価指標	指標名		計画値	実績値
	利用者数（有料）		5750	6319
	利用者数（総数）		8000	8095
	入館料		¥537,500	¥543,980
	アンケート回収数		300	255

評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）		
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数	評価点
	25	I	1.0	25	II	0.8	20

指定管理者コメント
 台風による水害、コロナウイルスの影響により、三年連続の一万を超えはなりませんでしたが、計画値に対し110%を維持しました。継続的な利用者の安全確保・快適な空間の提供をめざし、景観整備と合わせ、見学路のバリアフリー化などの安全対策を進めてきた結果、郷土資料館についてはデイサービスの利用者が大幅に増加しました。また、歴史民俗資料館の平日の高齢者・障がい者の無料入館を昨年度に引き続きおこないました。春の雑祭り、秋の月見飾りが定着し、2.3月、9.10月にリピーターが増加、年間の来館者数の平準化が進み来館者アップに繋がっています。更に、来館者への対応については、スタッフ全員での挨拶・声かけを励行し、来館者から高い評価をいただきました。特に、スタッフの対応に感謝した来館者から文化課に、栃木市ふるさと文化振興基金に20万円の寄付が寄せられました。アンケート回収率については、2回にわたる休館により目標に届きませんでした。

施設所管課コメント
 施設運営の基本方針について、職員全員が理解し、資料館における文化財等の管理、展示や施設整備等を適切に行った。
 郷土資料館の見学路の整備や母屋周辺の段差解消、排水路の整備等を行い利用者の安全性を確保するとともに、景観向上のための整備等を行い来館者サービスの向上に努めた。
 台風19号やコロナウイルスの影響により、臨時休館や予定していたイベント等が中止になるなどのため、利用者数の大幅な伸びは見られなかった。アンケート調査については、回収数は目標値に届かなかったが、来館者の意見に対しては、工夫しながら適切に対応した。
 また、来館者への対応については、全職員が挨拶・声かけおこなうなど親切に対応しており、来館者から寄付金が寄せられるなど、高い評価を受けた。

(2) 施設の効用を最大限に発揮する取組み							
評価要素	①	施設の設置目的に基づいた事業計画通りに管理運営をしているか					
	②	広報活動等（広報紙、ケーブルTV、ホームページ、SNS等）による新規利用者の増加に向けた、効果的な取組みを行っているか					
	③	開館時間の延長及び新規事業等による新規利用者の増加に向けた、効果的な取組みを行っているか					
	④	地域住民や関係団体等との連携や協働による事業等、利用者や地域住民の満足度を高める取組みを行っているか					
管理状況評価指標	指標名		計画値		実績値		
	ホームページ更新回数		20		28		
	協働事業実施数		12		15		
	協働事業参加者数		3000		3906		
	自主事業数		20		21		
	展示替え		1		2		
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）		
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数	評価点
	20	I	1.0	20	I	1.0	20
指定管理者コメント	<p>本年度は市内12小学校の授業に利用されており、今までの学校対応が評価されていると思います。今年度は「七廻り鏡塚古墳」発掘50周年にあたり、生涯学習課「市民大学講座」との連携で企画した周辺古墳見学は残念ながら水害・コロナウイルス感染で中止となりましたが、展示コーナーは開館以来30年ぶりのリニューアルを実施し、説明パネルの修正・更新をしました。また、地域との連携・協働については、戸長屋敷の特徴を生かし、煎茶教室・吊るし飾りなどの市民団体との協働・協賛事業を実施、集客アップに貢献しています。更に資料館リソースを活用して実働組織「大平わいわいテラス」と連携、2回にわたり市民対象の歴史散策を行いました。本年度は、東武鉄道健康ハイキングが開催され、地域諸団体と連携し対応に当たり、参加者・主催者の東武駅長会より好評を得ました。また、館長は引き続き、「光と音のページェント」会長、「大平わいわいテラス」事務局長として参画するなど地域との連携事業を展開しました。</p>						
施設所管課コメント	<p>台風19号やコロナウイルスの影響により、開催できない講座等もあったが、概ね事業計画通りに管理運営を行った。 実施事業の広報活動については、各種媒体を活用し、事業実施前及び開催時に積極的に広報活動を行い、来館者の増加に努めた。 「七廻り鏡塚古墳」発掘50周年として実施予定であった周辺古墳見学は開催できなかったが、資料館内の展示コーナーをリニューアルし、説明パネルの更新等を行った。 地域との連携・協働については、郷土資料館の特徴を生かした地域の団体との協働事業や、市民実働組織と連携した歴史散策の実施など、利用者や地域住民の満足度を高める取り組みを積極的に行った。また、引き続き市内の小学校に対し、施設見学及び昔のものづくり体験ができる機会を提供した。</p>						

(3) 施設経費の削減の取組み							
評価要素	①	指定管理料、利用料金等の収支手続について、適切で透明性の高い管理をしているか					
	②	サービスの質を確保した経費削減の取組みを行っているか					
	③	清掃、警備、保守点検など、業務の一部委託等をする場合、複数業者からの見積合わせなど、経費削減等に考慮して適切に行っているか					
	④	施設、備品等の管理について、適切に維持管理し、省エネ、省資源、環境配慮物品の購入など環境への配慮を適切に行っているか					
管理状況評価指標	指標名		計画値	実績値			
	光熱水費		¥1,066,020	¥939,027			
	リース料		¥654,000	¥710,054			
	修繕費		¥324,000	¥1,372,420			
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）		
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数	評価点
	15	I	1.0	15	II	0.8	12
指定管理者コメント	<p>指定管理料の収支手続きについては、例年通り資料館職員と担当理事の2人制で行い、年度末には税理士に確認指導を委託しています。再委託業務については、引き続き庭園整備は職員が行い、コストをおさえながら景観向上と高齢者利用増加に対応すべく、見学路のバリアフリー化整備を行い、利用者から好評を得ています。光熱水費については、小学3年生の「昔のくらし」体験用水稻栽培の水道代増加があり、また、期首予算を減額したため昨年と比べ予算削減幅が減少した。リース料については最終年であることから13ヶ月分を要した為、増額となった。休館などで事業を行わず減少した経費の多くを修繕費としたため、三年連続予算に対し100万円を超える金額を充当し、老朽化した施設の修繕に取り組み、今年度は中門の塀・門扉、トイレができた。</p>						
施設所管課コメント	<p>指定管理料等の収支手続きについては、複数人体制で行っており適切に管理をしていた。また、台風19号やコロナウイルスの影響により中止となった事業などの費用を施設の修繕費等に充てるなど、利用者へのサービスの向上を優先しながら経費の節減に努めた。施設の小修繕や植栽の管理等については職員が行うことにより経費を節減するとともに、ごみの処分についても、極力職員で行い分別して売却するなど工夫して処分したが、中門等の修繕や屋外トイレの修繕等老朽化した施設の修繕を行ったため、かなりの増額となった。また、修理が必要となったパッケージエアコンを電気料の節減等を考慮し新しいものに取り換えるなど、環境への配慮も適切に行った。</p>						

(4) 施設の管理を安定して行うための取組み						
評価要素	①	施設の適正管理に必要な職員の配置及び管理運営体制が確保されているか				
	②	職員の望ましい勤務形態及び育成指導、研修等が十分に確保されているか				
	③	職員の福利厚生は充実しているか				
	④	各種税金や社会保険料等は適切に納められているか				
	⑤	団体の財政状況等は健全であるか <別紙参照>				
管理状況評価指標	指標名			計画値	実績値	
	人員配置数			4名/日	4名/日	
	勤務時間数（平均1人一日当り）			7.75時間	7.75時間	
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）	
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数
	20	Ⅱ	0.8	16	Ⅱ	0.8
指定管理者コメント	<p>職員は正職員・パート職員を合わせ6名が通常業務、NPO理事2名が運営にあたり、平日は最低3名/日の勤務体制を、土日祝日および団体向けもの作り体験対応時・イベント開催時には4名～6名を配置。また、指定管理運営経験者、所蔵品に対する専門家などを顧問として配置、管理能力の強化を図りました。職員の研修については、接客マナーの向上と、利用者への挨拶・声掛けなど日常的にOJTを行い、来館者へのアンケート結果でも高い評価を受けています。更に、企画展開催前には職員に事前研修を行い、適切な案内ができるように努めました。社会保険は、法令通り該当者について加入、源泉税・消費税も適正に支払いをし、財政状況についても正常に運営していると考えます。</p>					
施設所管課コメント	<p>施設の管理運営について、職員は常時3～4名が勤務、イベント開催時には増員するなど柔軟に職員配置を行い、定期的に運営委員会や教育委員会との連絡会議を開催するなど適切に管理運営を行った。</p> <p>職員の研修については、接客マナーなどの日常的な研修や企画展開催時の事前研修等を行い、どの職員も来館者へ親切に対応が出来るよう指導が徹底されていた。</p> <p>社会保険、各種税金は適切に収められており、財政状況についても正常に運営されていた。</p>					

(5) 施設の安全対策、危機管理体制の取組み						
評価要素	①	① 日常の安全点検及び法定点検等の安全対策を行っているか				
	②	② 緊急時の危機管理体制等が確立されているか				
	③	③ 避難訓練や防災訓練を適切に行っているか				
	④	④ 具体的な個人情報保護対策を行っているか				
管理状況評価指標	指標名			計画値	実績値	
	消防訓練実施数			2回	2回	
	マニュアル更新件数			1件	1件	
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）	
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数
	20	I	1	20	III	0.6
指定管理者コメント	<p>来館者の安全を最優先に、事故防止対策は、昨年に引き続き高齢者利用増加に対応すべく、段差解消など見学路のバリアフリー化整備を行い、特に、車いす利用については、実際に車いすを操作し、利用者・介助者の疑似体験を整備に反映させた、また、ハチ・ヘビの忌避剤の散布を行っているため、高所作業時には安全ベルト・ヘルメットの着用を励行しています。また、防災訓練は年2回実施、避難誘導訓練やAED操作訓練も行いました。防火管理については、各部所の火元責任者を明確にし、日次のチェックマニュアルの見直しを行い、より実情に即したものに改善しました。</p> <p>マニュアルについては、避難誘導訓練の結果を反映させ、避難経路の見直しをしました。</p>					
施設所管課コメント	<p>日常の安全点検や法定点検等を適切に実施し、来館者の安全を最優先に考えた安全対策が実施されていた。また、職員の作業時にも、安全に作業ができるよう対策を行っていた。</p> <p>危機管理マニュアルが整備され、緊急時に対応できる体制が整えられていた。また、防災訓練を年2回実施し、訓練の結果を反映させて避難経路の見直しを行った。例年行っていた地域住民参加による大規模な避難誘導訓練、消火訓練等は実施しなかった。</p> <p>個人情報の保護については、マニュアルに基づき個人情報の取り扱いを適切に行った。</p>					

評価結果	配点	第1次評価点 (指定管理者評価)	第2次評価点 (施設所管課評価)	第3次評価点 (選定委員会評価)
(1) 平等利用の確保と サービス向上の取組み	25	25	20	
(2) 施設の効用を最大限に 発揮する取組み	20	20	20	
(3) 施設経費の削減の取組み	15	15	12	
(4) 施設の管理を安定して 行うための取組み	20	16	16	
(5) 施設の安全対策、 危機管理体制の取組み	20	20	12	
評価点合計	100	96	80	
総合評価		A	A	

第3次評価（選定委員会評価）	
選定委員会コメント	

(4) 施設の管理を安定して行うための取組み

《 別紙 》

⑤ 団体の財政状況等は健全であるか

直近3カ年の情報を記入してください。

決算年次	平成29年3月期	平成30年3月期	平成31年3月期
資産総額	1,536,674	1,580,560	1,692,189
売上高	27,775,152	28,414,259	28,392,322
経常利益	248,288	43,916	111,599
当期利益	248,288	43,916	111,599
経常収支比率	100.9%	100.2%	100.4%

※ 経常収支比率について

本指標は、会社の資金繰りの実態を示す指標です。

この数値が100%未満であると銀行借入などをしなければ営業活動ができなくなるといわれているものであり、経常損失が生じていることを意味します。

決算年次	平成29年3月期	平成30年3月期	平成31年3月期
経常費用	27,526,864	28,370,343	28,280,723
経常収益	27,775,152	28,414,259	28,392,322
経常収支比率	100.90%	100.15%	100.39%

○経常収益（営業収益＋営業外収益）÷経常費用（営業費用＋営業外費用）×100で求めます。

指定管理者コメント

上記は2019年度の決算は5月末となるため、昨年までの決算です。当期収入については資料館の繰越金額が例年より多いため増加になることが予想されますが、確定ではない未払い金があるため、設定した雑費の予備費の支出により、更に前後する可能性があります。